



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第11号

2021年6月23日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

緒川小学校 オープン・タイムでのSPさん

6月17日、緒川小学校のオープン・タイム(O・T)に2人のSPさんが来てくれました。O・Tは4年生以上の子ども一人一人が自らの学びを計画し、教師がその学びを“支援”するスタイルの学習です。自分の願いを実現するために学習課題の設定や学習活動の進め方、学習のペースなどを子ども自らがデザインして取り組みます。先日からウィークリーSPとして活動を始めてくれた杉本SP、そして、今回初参加の鮫島SPの二人が、参加をしてくれました。鮫島SPはウィークリーSPではないですが、「せっかくなので……」と1限からたっぷり参加をしてくれました。二人とも、ありがとうございました。今回、私も初めてO・Tを見させていただきました。ワクワクしました。正直、大人の私ですら「やってみたくないなあ」と興味をそそられるテーマばかりでした。(「にぼしの解剖」は衝撃的でした……)当然、子どもたちもとても楽しそうに取り組んでいました。

杉本SPは、木工室で「糸のこぎりを使ってペン立てを作ろう」という教室に入っていました。糸のこぎりの使用には危険が伴います。大人が目も一人でも多く欲しい活動だと思います。杉本SPが入ったことで、担当の先生と二人の大人が目も支援が出来ていました。鮫島SPは、「ミシンを使ってマスクケースを作ろう」という教室にいました。ミシンも使用時に危険が伴う上に、糸の通し方や返し縫いなど、難しい手順がたくさんあります。二人とも、糸のこぎりやミシンを使う機会が日常的にあるわけではないので、迷いながらだったと思います。それでも、「先生！これどうするの?」「先生！変なふうになっちゃった。どうしよう?」と子どもたちから引っ張りだこでした。子どもたちは待ってくれません。方々から声がかかっていた。二人とも、それに丁寧に対応してくれていました。優しく寄り添ってくれていました。だから、子どもたちもどんどんSPさんを呼びます。どんどん助けを求めます。それにどう対応していくか……。二人はこれからもこのO・Tに参加してみたいと話してくれていました。今日の経験を生かして、次はもっと素晴らしい支援をしてくれるだろうなあ……と思いました。そのくらい一生懸命目の前の子どもたちに向き合ってくれていました。二人にとってもとても良い経験であったと思います。また活動記録も読ませてください。楽しみです。

緒川小のO・Tは、子ども一人一人がテーマを決めるもので、さまざまな活動が行われています。SPさんの力があればあるほど、学習もより質の高いものになっていくと思います。とても面白い時間です。興味のある方は、ぜひ参加してみてください。皆さんの得意分野や特技も活かせる、楽しい時間です。

